

## 勝負の秋 その1

次から次へと勝負の秋です。

野球、サッカー、ラグビーが選手権大会の県大会を制して全国大会に出場したのは、昭和60年でした。大三冠達成は、後にも先にもこの年限りです。しかし、ラグビーとサッカーが選手権を制したのは、平成11年にもありました。この年には、剣道も県大会を制しております。

昭和52年には、サッカーと剣道が県大会を制しました。

今年は、どうなることやら。吹奏楽が、全国を制し、ラグビーが県を制し、野球が春の甲子園に出ることにでもなれば、久しぶりの快挙といえるかもしれません。サッカーの面々も選手権県大会制覇のために、受験勉強とともに練習を続けています。合唱も久しぶりに東北大会に出場します。テニスも男女ともに、県大会制覇を目指しています。

3年生にとっては、それぞれの全国大会が幕を開けます。今月中にはセンター試験の受験申し込みを行います。指定校推薦を目指したりやAO入試に挑む人もいます。

来年から高大接続のための大きな入試制度改革を前にして、世の中はかなり安定志向に向かうだろうと予測していますが、変革の前であるからこそ、思い切ったチャレンジも可能であるといえるのではないのでしょうか。

共通一次試験導入を経験した自分たちの世代は、チャレンジした者こそ大きな成果を得ていたように思います。東北大志望を京都大志望に変えて成功した者。立命館大学に現役で入ったけれど京都大学をもう一度受けて見事合格した者、東大合格を疑わず、私大受験をしなかった者。などなど、猛者がいる中、右往左往して目の前の成果ばかり追う羽目になり、結局、拾ってもらった私大に行くことになった自分は、それでも、私大の系列小学校や中学校からの人脈の広さと深さに驚き、様々な恩恵をいただくことができたのは幸運でした。

行ってみれば、捨てる神あれば拾う神ありなのです。(世の中はさまざまで、見捨てる人も助けてくれる人もいるものだ。人に見限られたからといって、くよくよすることはないということ。)

学生時代に、極貧生活を送っていた自分を見るに見かねて、家庭教師を紹介していただいたアルバイト先の塾の塾長は、やはり大学の先輩で、西武百貨店の営業をしながら、セカンドビジネスをしていた方でした。その出会いでどれほど私がすくわれたか筆舌に尽くしがたいのであります。

まさしく、人に出会うために大学はあるのだと実感したところでした。

